



学生の皆さんへ—研究科長・学部長からのメッセージ—

《初心忘るべからず》

多田 幹郎

後期の授業が始まりました。「さあ、気を引き締めて、心機一転、頑張るぞ!」と思っている人が多いと思います。そのような皆さんに、「初心忘るべからず」の言葉と今後の頑張りに対するエールを送りたいと思います。

皆さんが本学科を目指した目的を思い出して下さい。また、入学が決まった時、その目的に向かって頑張ろうと強く思ったことを覚えているでしょう。これが「初心」です。皆さんの初心は「管理栄養士を目指して一生懸命に勉強すること」であったと思います。後期の始まりに当たって、自分の「初心」を今一度確認してみてください。

現在、国民の「食と健康」ならびに「食の安全・安心」に関する意識は一段と高まりつつありますが、「風評被害」や「健康食品による健康被害」などがマスメディアに取り上げられるように、これらについての科学的理解は十分とはいえない状況です。食品安全基本法および食育基本法には、国民の義務として、「食についての科学的理解に努めること」が定められています。そして、皆さんには、「食についての正しい理解の社会への伝道師」としての役割が期待されているのです。皆さんの「初心」は社会の要請に一致するものであることを認識して、頑張ってください。最後に、「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」のことわざを記しておきます。

大学生活の前期を終えて

松本 夏生(1年)

中国学園大学に入学して、約半年が経ちました。不安と期待でいっぱいだった大学生活にも慣れ、忙しくも充実した日々を送っています。入学してからの毎日は、分らないことの連続でした。90分の長い講義、初めて書くレポートなど、本当に多くのことに悩まされました。講義で得た知識は、復習をしなければすぐ忘れてしまいます。分らないことを放っておけば、分らないまま講義が進んでしまいます。自ら知る、学ぼうとすること、日々の努力の積み重ねがどれだけ大切か、ということを感じました。また、4月に行われた山陽ハイイツでの宿泊研修では、友達との輪を広げることが出来、5月に行われた体育祭では、まださみしかった私たちの仲を、より一層深めることが出来ました。同じ夢を追いかける仲間と、良きライバルとして競い合い、良き仲間として助け合うことで、お互いを刺激し、より充実した4年間を過ごすことが出来ると思います。

1年前期を終えた今、時間の経過でも早く感じています。この大学に入学したことも、つい最近のことの様に思え、本当に毎日が充実しているな、と思いました。しかし、まだ終わりではなく、途中なのです。後期からは、専門的な講義も増え、今まで以上に日々の積み重ねを要することになると思います。前期以上に努力を重ね、日々の学習に興味を持ち、学ぶことを楽しんでいきたいと思っています。

新入生歓迎会

平成21年4月8日に新1年生、先生方や2年生で新入生歓迎会を行いました。去年、私たちが先輩方に開いて頂いた事を思い出しながら、1ヶ月前から献立を考え、試作を繰り返して、工夫を凝らした献立にしました。戸惑う事も多く、説明不足などでみんなに迷惑をかけてしまいました。無事に行う事が出来ました。今年のメニューはパン、ビーフシチュー、ミモザサラダ、にんじんゼリーでした。食事をしながら、新1年生と大学生活やサークルのことなど楽しく話をしました。私たちが入学した時の事を思い出すと同時に、先輩になったんだという自覚が湧きました。新1年生はスタートを切ったばかりで新しい環境に戸惑うこともあると思いますが、将来の目指す目標を忘れずに充実した大学生活を送ってもらいたいです。今回、新入生歓迎会を通して、大量調理の大変さを学びました。材料を大量に発注する事や衛生面を考えながら大量調理する事が普通の調理とは違い、大変でした。反省することも多くありました。今回学んだ事を生かして、これからの授業や実習に取り組んで行きたいです。

山本 恵子(2年)



藤原 伸太郎(1年)

4月10・11日に、山陽ハイイツで宿泊研修がありました。この宿泊研修では1年生、先輩方との交流、グループ別討議などが行わ

新入生宿泊研修を終えて

れました。交流では自己紹介の時、あまり喋らなかったので、1年の男子からはクレームがきてしまい大変な思いをしました。また、先輩との交流では大学生活や講義の話や、とても楽しく交流することができました。次に、グループ別討議では、決められたテーマの中から1つを選んで意見を出し合い、それをまとめ、発表しました。最初はうまく討論できるかどうか不安でした。しかし、なんとか自分の意見を伝えることができ、討議したことをまとめあげることができました。この研修を通して、先輩方やクラスメートとの親睦を深められ、また管理栄養士になるという目標を再認識することができました。そして、この研修で先生方や先輩が話してくれたことを忘れることなく、常に目標、興味、関心を持って大学生活を充実したものにしていくと思います。



編入生の決意—2年間を有意義に—

長船 歩美(3年)

私は短大での勉強の中で、栄養学をさらに深く知り管理栄養士になりたいと強く思い四年制大学への編入を決めました。入学すると授業での学び方の違いやレベルの違いなど、短大と異なる点がいくつもあり戸惑いましたが、クラスの皆が優しく助けてくれ、先生方にも助けてもらいながら今ではようやく勉強のペースにも慣れてきました。また、編入生が1人という事もあり友人関係がとても不安でしたがクラスの皆が気さくに話かけてくれた事で不安は無くなりました。これから卒業まで色々な事があると思いますが、残りの時間で多くの事を学び、経験して成長していきたいと思っています。悔いのない大学生活を送り管理栄養士に少しずつ近づけるよう努力していきたいです。

大学院に学んで

川崎 真弥(現代生活学研究科1年)

私は大学院に進んでよかったと感じています。大学院での授業は、今まで大学で学んできたスタイルの講義形式ではなく、自ら疑問を探し、調べ、発表するという、自ら積極的に行動しなくてはならない形式であり、始めはとても戸惑いました。うまくまとめられなかったり、調べたい内容がうまく見つけられなかったり、難しいこともたくさんありました。しかし、自らの疑問点を調べることは楽しく、わからないことは、他のメンバーのまとめ方、発表のやり方等を聞いて参考にし、学んでいくものも多くなりました。さらに疑問点を先生に詳しく聞いたり、メンバーと話し合ったりすることで知識が広がっていくように感じました。また、大学院では、他大学へ講演を聞きにいったり、学会の手伝いや見学することができ、今後の貴重な体験をすることができます。さらに、自分が目指している事について先生方はとても協力してくださり、大学時だけでは経験できなかった多くの事をさせていただけ、知識が身に付いているように感じます。現在私は夢に向かい実習を行っています。就職前にいろいろな実践ができたり、あらゆる課題、問題を体験でき毎日が勉強になっています。大学院生活はもちろん初めて行う内容も多く、大変だと感じることもありますが、私は充実した大学院生活を送ることができています。もっと今後活かせる活動を積極的にやりたいと思います。やはりいろいろな体験をすることができ、大学院に進んでよかったと感じています。

海外研修の思い出

松本 結衣(3年)



初めての海外で慣れないことがたくさんで大変だったけど、日本では体験できないようなことをたくさん体験できて嬉しかったです。食べ物は美味しかったが量が多かったり、味が濃かったり国の食文化の違いを知ることができました。研修を終えてイタリアは素晴らしい国だと感じたので、また行きたいと思いました。だが、他国の素晴らしいさを知ると同時に日本の良さも恋しかったです。他国を認めるだけでなく、自分の国の良さを改めて実感するのとても大切だと思いました。この研修は私を大きくしてくれました。本当に研修会に参加できて良かったです。そして研修にかかわって下さった皆様本当にありがとうございます。

栄養セミナーⅠの新たな試み

—地域へ出かけて体験し、学ぶ—

栄養セミナーⅠでは次のような学外学習を試行しました。
 □管理栄養士が勤務する職場（笹木内科医院、吉備中学校）を見学し、直接話を聞くことにより管理栄養士を具体的にイメージし、学習意欲へつなげる。
 □高齢者の方々との交流を体験するために、グループホーム「きびの里」を訪問し、入所者と一緒話をする、歌うなどの交流をしました。2回の事前オリエンテーションの後、5月20日から7月22日の間に、全員が各施設をセミナーグループ単位で1回ずつ訪問しました。学生は、いずれの施設でも積極的に行動し、多くの質問も出るなど参加態度は意欲的でした。実施後の感想には、高齢者との交流に戸惑った様子も散見されましたが、管理栄養士が具体的にイメージできた、将来像が描けるようになったなど、一定の成果を上げることができました。3施設にはご多忙中にもかかわらず大変好意的に受け入れて下さいました。ここに謝意を表します。
 (教授 高 早苗)

栄養セミナーⅡ—野菜の栽培と漬け物作り—

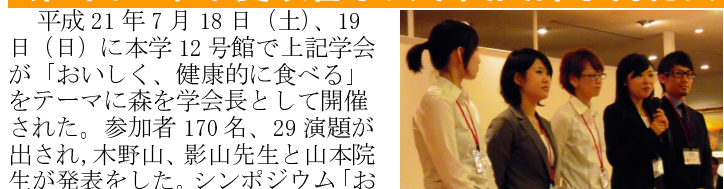


野菜の栽培は初めてという学生もいました。学生たちは虫や雨蛙の出現に奇声を発する場面もありましたが、土作り作業、苗の植え付け、水やり、脇芽摘み等積極的に取り組みました。その甲斐あって、キュウリ、トマト、ナス、ピーマン等がたくさん収穫できました。その内のきゅうりとなすで4種類の漬け物を作りました。学生はその出来映えに満足と答えていました。(講師 堤 千代子)

e-ラーニングの施行

理科の基礎学力を向上させるために、e-ラーニングにより中学・高校レベルの化学と生物学を復習しています。学生は各自の「IDとパスワード」を持ち、インターネットで、学内のみならず自宅からでもアクセスでき何時でも何処からでも学ぶことが出来ます。内容は教科書説明と演習問題から成り、項目別に学習すると、各人の学習記録は集約的に管理できます。しっかり利用して理科の基礎学力を養い、めざせ、国試全員合格！
 (教授 林 英生)

第6回日本栄養改善学会中国支部学術総会



平成21年7月18日(土)、19日(日)に本学12号館で上記学会が「おいしく、健康的に食べる」をテーマに森を学会長として開催された。参加者170名、29演題が出され、木野山、影山先生と山本院生が発表をした。シンポジウム「おいしく、健康的に食べる取り組み」、特別講演「食の安全・安心への取り組み」、ランチョンセミナー「岡山の郷土料理、ばら寿司」、市民公開講座「うま味文化とうま味の科学」「食べ物からの感染症」と多彩な内容で多田、林、高先生が講演等を行った。会場準備や学会運営に真鍋先生始め助教、助手、院生が大活躍をした。
 (教授 森 恵子)

高等学校家庭科教員研修会

去る8月21日に、岡山県高等学校家庭科教員研究会が本学にて行われました。午前中は、12号館での短大総合生活学科の宇野保子講師による、「服飾百話」と題された講義があり、服装の持つ意味と和服の移り変わりに加えて児島ジーンズの発展についてわかりやすく講義いただきました。また、演習「食育サットで遊ぼう」では、食育サットを用い、グループに分かれてテーマに沿った食事のバランスについて楽しく学ぶことができました。

午後からは、本学科の多田教授による講和「食の安全と安心」と、「食品の色の抽出、色と甘味、温度と甘味など」というテーマで実験を行いました。実験では温州みかんの薬品によるつぶ入り果汁の調整と、ほうれん草の色素の分離を行いました。また、視覚が甘味に及ぼす影響を実際に体験しました。

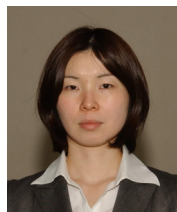
参加した家庭科教員の皆さんは、みかんの粒が分離していく様子や、視覚によ

って甘味の感じ方が変わることによって驚かされていました。この研究会には、演習や実験の助手として4年生と大学院生が参加していました。このことは、彼女たちにとって普段の受け身の授業や実習では体験できない、貴重な学習の機会となったと思います。

(助教 木野山 真紀)

新任教員(自己)紹介

—川島 愛子 助手—



今年度より助手として勤務させていただくことになりました。私は短期大学を卒業後、福祉施設や病院に約6年間勤め、主に献立作成や発注、調理・盛り付けの補助、食数管理に従事していました。病院では栄養指導も行っていたのですが、継続的な指導ではなく指導の効果や対象者の行動変容などがなかなか把握できなかったことから、管理栄養士としてもっと治療に携わりたい、そのためにはもう一度しっかりと学びなおそうと一念発起し、岡山県立大学保健福祉学部栄養学科に編入しました。当初は、再就職先は病院と決めていた私ですが、卒業研究で慢性肝炎における栄養療法を模索する楽しさに気づき、奈良女子大学大学院に進学しました。大学院では、非アルコール性脂肪肝炎や脂肪肝、メタボリックシンドロームの方々を対象として、脂質の摂取量だけではなく脂肪酸の種類や量に着目した食事療法の研究を行ってきました。

本学に着任して半年が過ぎ、人に伝えることの難しさを痛感しています。学生のみなさんには私のように回り道せずに、目標を見つけ、その目標を成し遂げられるようサポートしてきたいと考えています。まだまだ不慣れなことが多く、皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでもみなさんのお役に立てるように頑張りますのでよろしくお願い致します。

—三宅 教子 助手—



本年度より助手として勤務させていただいております。

私は、ノートルダム清心女子大学人間生活学部食品栄養学科を卒業後、岡山大学薬学部にて技術補佐員として勤務したのち、就実大学薬学部にて5年間実験助手として勤務いたしました。ここでは、主に学生実習やMALDI-TOF-MSを用いたプロテオーム解析、タンパク質の立体構造解析を目的として大腸菌を用いたタンパク質発現系での目的タンパク質の高発現及び精製などを行っていました。また、その間に岡山大学大学院医歯薬学総合研究科創薬生命科学専攻分子生命薬科学講座生体膜機能生化学教室にて、発酵乳ホエーの松果体中メラトニン量への効果及び肝障害抑制作用についての研究を行い、修士の学位を取得いたしました。

本学で助手として勤務し始めてから早いもので、もうすぐ半年になるかと思っています。これまで、栄養学とは少し離れた仕事をしていましたので、不安もありましたが、研究会や学会への参加、ボランティアを募って商品開発を行うなど、様々な経験をさせて頂き、改めて、栄養学の面白さを実感しています。学生の皆さんにも、そのような『学ぶ楽しさ・面白さ』を感じていただけるように、少しでもお手伝いできればと思っています。

まだまだ勉強不足でご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。

—影山 知絵 助手—



本年度より助手として勤務させていただくことになりました。

私は、岡山で生まれ育ち、ノートルダム清心女子大学人間生活学部食品栄養学科を卒業後、同大学院の修士課程に進学し、本年度3月に修士の学位を取得いたしました。私の修士課程の研究テーマは、スポーツ選手に対する栄養サポートであり、大学生水泳選手における栄養サポートの効果に関する研究を行ってまいりました。

今年度から、初めて実習や実験の助手を担当させて頂いており、皆さん一人一人にきちんと理解してもらおうことの難しさを感じる時もありますが、私自身も皆さんから学ばせて頂くことも多々あります。また、皆さんが学ぶことに楽しさを感じて、将来の目標に向かって何度も挑戦し、実現させられるよう、サポートしたいと考えております。

まだまだ至らぬ点も多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも先生方や学生の皆さんのお役に立てるよう、一生懸命頑張りますので、宜しくお願い致します。